

とみのささえあいプラン



住民発！富野校区 小地域福祉活動第一次計画
(令和5年度～9年度)



とみのささえあいプラン 小地域福祉活動第一次計画

も く じ

ごあいさつ	… 1p
第1章 計画策定にあたって	… 2p
1 計画の性格	
2 計画の期間	
3 計画の策定経過	
第2章 富野校区の現状と課題	… 3p
1 地域社会の動向	
2 地域の福祉課題	
第3章 計画体系	… 4p
1 基本理念	
2 基本目標	
3 実施項目（体系図）	
4 重点実施項目	
第4章 計画の推進	… 8p
1 計画の承認と周知	
2 計画を推進するための体制	
3 第二次計画の策定	
参考資料	… 9p
1 策定委員会名簿	
2 策定委員会での協議事項	



ごあいさつ

富野校区は小文字山と足立山の麓にあり、延命寺川にはホタルが生息するという自然環境に恵まれた静かな住宅地で、近年、若い世代が入居するマンションや新しい住宅なども増えています。しかし、ますます進む少子高齢化や一人暮らし高齢者の増加、自治会離れ、地域とのつながりや支えあいの弱体化など、地域社会を取り巻く環境は、大きく変化し、新たな課題も出てきました。特に坂道の多い高台に住む高齢者世帯等は、日頃の買物や家事など、日常生活に課題や不安を持つ方も増えています。

富野校区社会福祉協議会では、平成 10 年から、みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくりを目指し、地域住民や公私の社会福祉関係者が協力して「ふれあいネットワーク活動」による見守り・助け合い・話し合いの小地域福祉活動を進めており、さらに、令和 4 年度から地域生活支援相談員を中心に地域の有志等による「富野お助け隊」活動を新たに立上げ、高齢者等の日常生活の困りごと解決のお手伝いをはじめました。

誰もが、いつまでも、住み慣れたこのまちで、生きがいを感じながら安全で安心して暮らしていくためには、地域全体で福祉課題を共有し、一人ひとりが、他人事ではなく、「我が事」と思える意識の醸成に努め、校区全体で一丸となって住民主体の地域福祉活動を進めていかなければなりません。

そこで、富野校区では、「明るく住みよいまちとみの」を基本理念とする、小地域福祉活動第一次計画「とみのささえあいプラン（令和 5 年度～9 年度）」を新たに策定しました。

これまで、地域活動に関わっていなかった人の中には、参加したい気持ちがあってもどうやって関わったらよいかかわからず、活動に結びついていなかったこともあるかもしれません。この計画が多くの方々の参加や協働のきっかけとなり、富野校区の地域福祉活動が進展していくことを切望いたします。

この計画の策定にあたりご尽力いただきました策定委員ならびに関係者の皆さまに感謝申し上げますとともに、今後ともこの計画の推進にご支援を賜りますようお願い申し上げます、ごあいさつといたします。



富野校区社会福祉協議会
会長 梅野 秀麻呂





第1章 計画策定にあたって

1 計画の性格

(1) 住民発信の行動計画

この計画は、富野校区の様々な福祉課題を解決するために、住民や地域団体が将来の見通しを持って計画的に活動しようとするための民間の行動計画です。

(2) 小地域の生活を支える計画

この計画は、富野校区に住む人たちの「安全・安心な生活」を支えることを活動の原点とする計画です。

(3) 北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉北区社会福祉協議会と協働する計画

この計画は、北九州市及び北九州市社会福祉協議会・小倉北区社会福祉協議会の計画と連携しながら地域福祉活動を進めていく計画です。

(4) 富野校区社会福祉協議会の活動指針となる計画

この計画は、社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的な団体としての方針や発展強化の道筋を明らかにする性格を有します。

2 計画の期間

令和5年度～令和9年度までの5ヵ年とします。

ただし、計画の期間中、地域を取り巻く状況に大きな変化があれば、見直しを行います。

3 計画の策定経過

富野校区では、日頃から地域福祉活動に取り組んでいる地域団体・関係機関・行政等の皆さまからの幅広い意見を踏まえ、住民主体の地域福祉に関する計画を策定するため、令和4年7月6日（水）に小地域福祉活動計画策定委員会を設置しました。

同委員会は、17名の委員で構成し、6回にわたる協議の上、富野校区小地域福祉活動第一次計画を策定しました。（参考資料を参照）



第2章 富野校区の現状と課題

1 地域社会の動向

富野校区データ

令和5年3月策定委員会調べ

人口	8,062人	小学校	富野小学校、福岡教育大学附属小倉小学校
世帯数	3,891世帯	中学校	富野中学校、福岡教育大学附属小倉中学校
高齢化率	39.6%	公民館・市民センター	富野市民センター、下富野公民館、下富野地域交流センター
一人暮らし高齢者数	1,216人	地域包括支援センター	小倉北1
その他社会資源等	病院、介護施設、公園、保育所、幼稚園等		

富野校区は、小倉北区の東側にあり、小文字山の西側及び足立山麓に位置しています。天平年間から「登美」と呼ばれ、春は桜並木、夏は小文字焼き、秋は紅葉と自然環境に恵まれた静かな住宅地です。校区内には学校や市民センター、医療機関等の社会資源は充実していますが、交通の便については丘陵地帯での不便さも見受けられます。近年では、少子高齢化が進んでおり、世帯構成についても高齢者の単身世帯が占める割合が高い地域です。

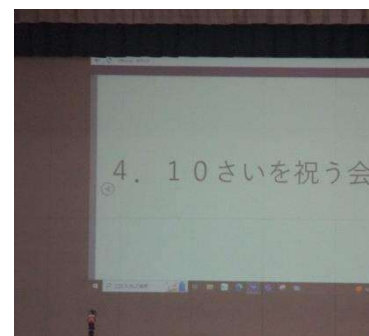
2 地域の福祉課題（及び小地域福祉活動の課題）

富野校区は、ふれあいネットワーク活動による地域の見守りや声かけ、助け合い活動などを推進し、福祉協力員や民生委員・児童委員、自治会関係者との連携により、高齢者や障害者等の支援をはじめ、子どもの健全育成や地域の活性化を目的とした様々な事業に取り組んできました。

しかし、近年は少子高齢化の進展や住民同士のつながりの希薄化により、日常生活に困りごとを抱えたり、社会的に孤立したりする人が見られるようになってきました。また、地域との関わりを持ちたがらない住民の増加や地域活動の基盤組織である自治会への加入率の低下など、地域活動の担い手の不足が深刻な課題となっています。

ますます複雑・多様化する地域福祉ニーズに対応するために、富野校区では、令和4年度から「富野おたすけ隊」（地域生活支援活動）を開始しました。

今後は「富野おたすけ隊」活動の更なる充実と、活動者の増強を図る必要があります。



成人年齢引き下げにより名称変更

第3章 計画体系

1 基本理念

「明るく住みよいまちとみの」

富野校区では、子どもから高齢者まで、障害のあるなしに関わらず、誰もが住み慣れたところで安心して生活できるまちにしたいと願っています。そこで、住民の皆さんの理解と参画を得ながら、地域団体や関係機関との連携のもと、「明るく住みよいまちとみの」を基本理念として、計画を推進していきます。

2 基本目標

(1) 地域の暮らしを支え合おう

「困ったときはお互い様」、「できる人ができることを少しずつ」のお互いに協力し合える支え合いの地域風土を醸成し、助け上手・助けられ上手な人があふれるふれあいのまちにしていきます。

(2) 福祉を学び合い、助け合いの意識を高めよう

次世代の地域福祉を担う子どもたちの「福祉の心」を育む福祉教育やウェルクラブ活動の充実を図ります。また、地域住民の福祉への関心を高めていくために ICT（情報通信技術）などを活用した情報発信や福祉を学ぶ機会を設けることによって、地域活動者の確保に努めます。

(3) 住民同士のふれあい・交流の場を拓けよう

子どもから高齢者まで、地域に住み、学び、働く様々な人が、支える側・支えられる側の垣根を越え、ふれあいと交流のなかで、気軽に、楽しく参画できるしくみづくりを進めます。



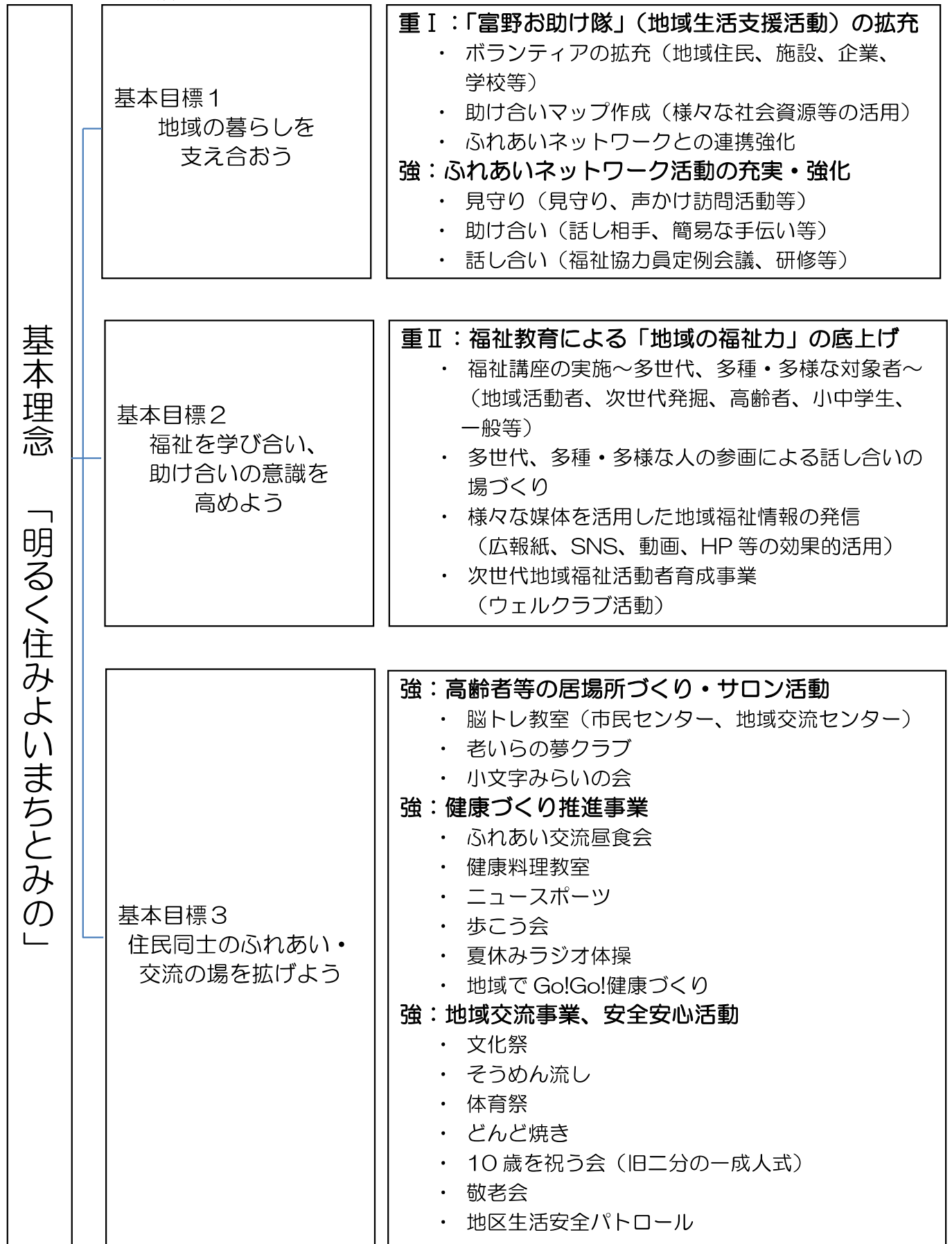
10歳の時に手紙を預かる



未来への手紙開封（20歳の記念式典の前日 15:00～）



3 実施項目（体系図）



重：重点実施項目
 強：活動強化項目

4 重点実施項目

重点実施項目Ⅰ		「富野お助け隊」(地域生活支援活動)の拡充					
1 課題背景及び現状							
<p>富野校区は、小文字山と足立山の麓に広がる自然豊かな住宅地ですが、急な坂道や狭い道路も多く、住民の高齢化が進むにつれ、生活のしづらさや困りごとを抱える人が見られるようになってきました。</p> <p>そのため、令和4年度から生活支援ボランティアグループ「富野お助け隊」を組織し、家具の移動や電球交換などの生活上のちょっとした困りごとの支援をはじめました。しかし、「お助け隊」の周知が徹底していないことや「助けて!」と気軽に頼めない人も多く、また一方では、ボランティアの不足もあり、助け合いの輪が広がっているとは言えない状況にあります。</p>							
2 活動の方針・目標							
<p>いつまでも住み慣れた地域で暮らしていくことが出来るよう、公的な制度やサービスなどでは補えない日常生活のちょっとした困りごとを地域住民で助け合うためのしくみ「富野お助け隊」活動を拡充します。困ったときに「助けて」と言える、顔が見える信頼関係を日頃からつくり、ニーズの把握に努めます。また、活動の広報や新たなボランティアの募集を行うとともに、地域の様々な社会資源との連携を進めます。</p>							
3 段階的な取り組みの年次計画							
取り組み内容	連携する機関	R5	R6	R7	R8	R9	備考
「お助け隊」ボランティアの募集 (地域住民・福祉施設・企業・学校との協働)	まち協 市民センター 下富野公民館 福祉施設 学校 企業						<ul style="list-style-type: none"> 福祉協力員への重点的呼びかけ 町内会、地域住民、地域の企業・福祉施設、学校などからの参画
困りごとを話し合う場を充実させる	民児協 自治会 市民センター 福祉施設 学校 行政・関連団体						<ul style="list-style-type: none"> 地域生活支援相談員が主体となり、地域活動者、福祉施設等の関連団体と話し合い、課題の解決へつなげる
困りごとの把握・調査 (民生委員と福祉協力員、町内会長との情報交換)	民児協 行政 自治会						<ul style="list-style-type: none"> 困りごとを受け止める場をつくる(サロンを活用した相談・支援機能の強化)
「お助け隊」の広報、宣伝活動	まち協 市民センター 学校 PTA						<ul style="list-style-type: none"> 動画の作成・配信 お助け隊のマスコットキャラクターやグッズをつくる チラシの配布
生活支援サービス情報の収集(支援マップづくり)	市民センター 下富野公民館 福祉施設 企業・商店						<ul style="list-style-type: none"> 日常生活のお役立ち情報の収集 リスト化とマップづくり マップの配布



重点実施項目Ⅱ		福祉教育による「地域の福祉力」の底上げ					
1 課題背景及び現状							
<p>少子高齢化や人口減少、ライフスタイルの多様化等により、ボランティアや地域福祉活動者が不足しています。地域共生社会の実現に向けては、地域の困りごとに気付き、ともに支え合う地域福祉を目指す人づくりが必要です。</p>							
2 活動の方針・目標							
<p>地域住民の福祉への関心を高めていくために、様々な媒体を活用しながら、地域福祉活動についてより多くの人々が知る機会を増やし、子どもから高齢者まで幅広い世代が福祉を学び、体験できる場を設けます。また、社会福祉法人や企業等と連携し、新たな地域福祉の担い手として、協働していける環境づくりに取り組みます。</p>							
3 段階的な取り組みの年次計画							
取り組み内容	連携する機関	R5	R6	R7	R8	R9	備考
福祉協力員研修の体系化	まち協 自治会 市民センター						<ul style="list-style-type: none"> 新任福祉協力員研修の開催 現任福祉協力員を対象としたスキルアップ講座の開催
多様な人々の参画による話し合いの場づくり	まち協 自治会 市民センター 学校 福祉施設 企業						<ul style="list-style-type: none"> 「富野（10「と」3「み」の）の日」の制定（ex.まち美化）多世代、多種・多様な人々が参加できるイベントを企画し、毎年10月3日の「富野の日」に開催する
多世代、多種・多様な福祉講座の実施	市民センター 学校 社会福祉施設 企業						<ul style="list-style-type: none"> 多様な課題に対応した、誰もが参加しやすい講座を開催し、福祉の風土づくりを進める
様々な媒体（広報紙、SNS、動画、HP等）を活用した地域活動・福祉情報の発信	まち協 自治会 学校 社会福祉施設 企業						<ul style="list-style-type: none"> 広報ボランティアの発掘 広報チームの立ち上げ
ウェルクラブ活動の活性化	小学校 PTA 福祉施設 老人会						<ul style="list-style-type: none"> ウェルクラブ児童と保護者の地域活動への参加拡大
様々な行事・イベントを通じた人材発掘	まち協 自治会 市民センター 学校・PTA 福祉施設						<ul style="list-style-type: none"> 「お助け隊」ボランティアへの勧誘 ボランティア研修の開催 ボランティア交流会の開催

第4章 計画の推進

1 地域への計画の承認と周知

- (1) 富野校区社会福祉協議会総会等を通じた社会福祉協議会活動者への計画の承認と周知
- (2) 計画の実施項目の取り組みを進めていく上での関係機関・団体への周知・協力依頼
- (3) 計画書概要版の配布等を通じた校区住民への周知
等、計画を推進していくための広報活動を行います。

2 計画を推進するための体制

(1) 小地域福祉活動計画推進委員会の設置

計画を推進していくために、富野校区小地域福祉活動計画推進委員会を設置し、計画の進行管理を行います。なお、計画推進委員は、計画策定委員が兼務します。

- ① 関係機関・団体との連携
- ② 計画内容の具体的な実施方法
- ③ 進行管理の実施

等について、推進委員会で協議を進めていきます。

(2) 計画の進行管理

富野校区小地域福祉活動計画推進委員会を年2回程度開催します（当年度の事業推進の確認、年度内における中間確認、次年度の事業確認、また必要に応じて開催）。推進委員会では、PLAN（計画立案）DO（実行）CHECK（点検・評価）ACT（改善）というPDCAのサイクルを回しながら、計画内の各実施項目の進捗状況を把握し、計画通り進行していない場合には、その原因を明らかにし、問題への対策を立て、その対応策を実施します。

(3) 計画の評価

計画期間の中間時点では計画全体の中間見直しを、最終年度には総括評価を行います。

3 第二次計画の策定

第一次計画の推進状況を踏まえて、第二次計画の策定期間（計画第4～5カ年度）には新しく第二次計画策定委員会を設置し、計画策定に向けて協議を進めていきます。



ウェルクラブで
お宅訪問



ウェルクラブで
手話教室



参考資料 【富野校区小地域福祉活動計画の策定経過】

1 富野校区小地域福祉活動計画策定委員会 委員名簿

	氏名	所属団体	役職	備考
1	梅野 秀麻呂	富野校区社会福祉協議会	会長	委員長
2	新井 節代	富野校区社会福祉協議会	副会長	副委員長
3	中村 鈴子	富野校区社会福祉協議会	副会長	
4	中村 豊子	富野校区社会福祉協議会	会計	
5	徳永 日出城	富野校区まちづくり協議会	副会長	
6	原田 敏明	富野校区まちづくり協議会 民生部会	副部会長	
7	岩本 百合子	富野市民センター	館長	
8	勅使河原 秀喜	北九州市社会福祉協議会	地域生活支援相談員	
9	藤家 和夫	北九州市社会福祉協議会	地域生活支援相談員	
10	菊池 記子	北九州市社会福祉協議会	地域生活支援相談員	
11	田邊 伸三	北九州市立富野小学校	校長	
12	甲斐 孝一	北九州市立富野中学校	校長	
13	田中 昌俊	田中内科・眼科クリニック	理事長	
14	柿本 昌信	あすなる薬局とみの	薬剤師	
15	合馬 晶子	桜倶楽部	代表取締役	
16	高野 雅代	桜倶楽部	施設長	
17	林 光恵	北九州市小倉北区役所 保健福祉課	いのちをつなぐネット ワーク担当係長	

2 富野校区小地域福祉活動計画策定委員会での協議事項

回	開催日	主な協議事項
1	令和4年7月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・計画策定委員の自己紹介 ・小地域福祉活動計画策定について ・地域の福祉課題の洗い出し・整理
2	令和4年9月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を整理して「基本目標」案を決定 ・「基本目標」を達成するための「実施項目」の検討
3	令和4年11月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・体系図（基本計画）案の検討 ・「実施項目」の中から「重点実施項目」の選定
4	令和5年1月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・重点実施項目Ⅰ 「富野お助け隊」の拡充、 重点実施項目Ⅱ 福祉教育による「地域の福祉力」の底上げの検討
5	令和5年2月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の推進について ・計画書の編集について
6	令和5年3月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・計画書の編集と出版について



★社会福祉協議会のイメージキャラクター★



『プチボザウルス』(Petit vo saurus)

Petit (プチ :ちっちゃな)

Volunteer (ボランティア)

Saurus (サウルス ≡恐竜)

富野校区社会福祉協議会

〒802-0034 北九州市小倉北区須賀町 6 番 23 号 富野市民センター内
TEL 093-533-5541 FAX 093-533-5542

小倉北区社会福祉協議会

〒803-8510 北九州市小倉北区大手町 1 番 1 号 小倉北区役所内
TEL 093-571-5452 FAX 093-571-9553

北九州市社会福祉協議会

〒804-0067 北九州市戸畑区汐井町 1 番 6 号 ウェルとばた内
(代 表) TEL 093-882-4401 FAX 093-882-3579
(地域福祉部) TEL 093-882-4425 FAX 093-873-1351

